

平成24年度ヨコワ情報

平成24年12月27日
鹿児島県水産技術開発センター



1 今後のヨコワの来遊予測

今年度漁期（平成24年12月から平成25年4月）の南薩海域へのヨコワの来遊は、次のように予測されます。

今年度漁期のヨコワ漁獲量は、前年(6.6トン)を上回りますが、平年*¹(24.1トン)を下回る **低水準***²(15トン未満)となり、直近5ヶ年並(7.2トン)の漁模様となるでしょう。

*1 平年値はS62～H23年の平均値を使用。

*2 S62年からの漁獲量を基に低・中・高の3水準に区分し、評価しています。

低水準：15トン未満 中水準：15トン以上30トン未満 高水準：30トン以上

2 予測の根拠

○太平洋発生群に関する情報

今年春に沖縄県において漁獲されたクロマグロ親魚の漁獲量は平年・前年を下回っています。また、今年夏に本県及び高知県において漁獲されたヨコワ養殖用種苗の漁獲量も平年・前年を下回っています。これらのことから、今年の太平洋発生群のヨコワは少ないと予想されます。

○日本海発生群に関する情報

今年夏に漁獲された日本海クロマグロ親魚の漁獲量は平年・前年を下回っています。このことから、今年の日本海発生群のヨコワは少ないと予想されます。

○環境要因に関する情報

ヨコワの漁獲量は南薩・西薩海域の水温が低いと、また、黒潮北縁の離岸距離が大きいと増加する傾向が見られます。今年11月からの南薩・西薩海域の水温は平年より低く推移しており、また黒潮北縁も離接岸を繰り返しながらも平年より離岸していますので、ヨコワの来遊条件としては良いと考えられます。

以上のことより、ヨコワの来遊条件は良好であると予想されるものの、ヨコワの資源量は少ないと予想されることから、「今年度漁期のヨコワ漁獲量は、前年を上回りますが、平年を下回る低水準となり、直近5ヶ年並の漁模様となるでしょう。」と予測しました。

今後、漁海況週報やホームページ上で発表する水温情報に注目してください。
ヨコワ漁場の水温の目安は、18～20℃の水温帯です。

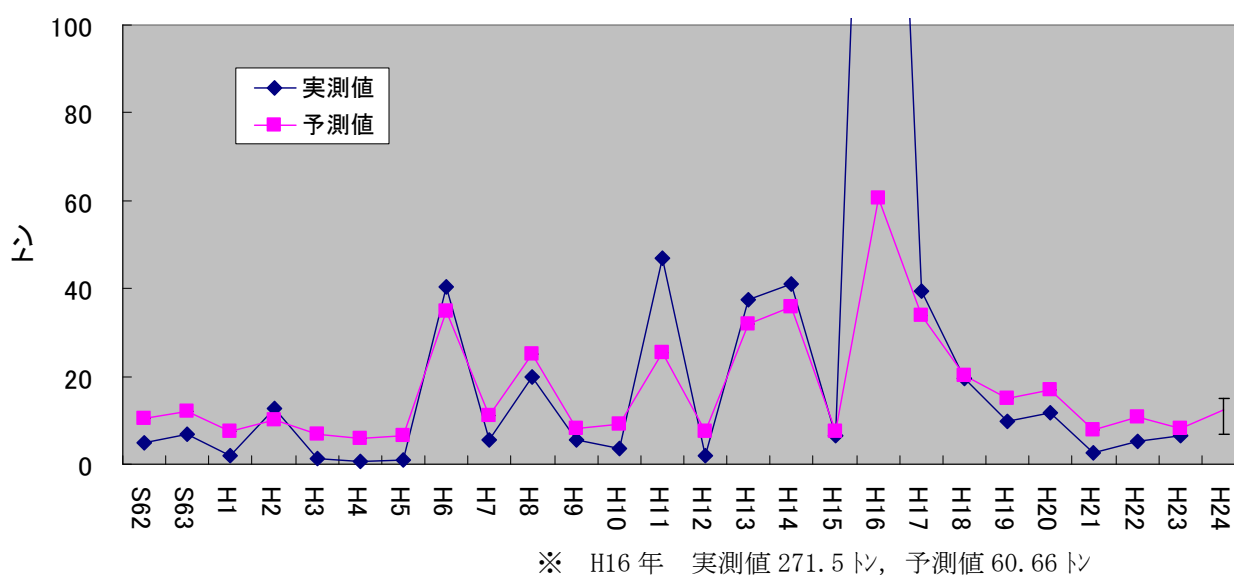
【参考情報】

(1) 統計モデルによるヨコワ漁獲量予測

当センターでは平成 23 年度から鹿児島大学水産学部と共同でヨコワの漁獲量予測モデルの開発を行っています。本予測は S62 年からの長崎県ヨコワ漁獲量，高知県ヨコワ養殖用種苗漁獲量，沖縄県クロマグロ漁獲量，日本海まき網船のクロマグロ漁獲量，本県ヨコワ養殖用種苗漁獲量，本県前年度のヨコワ漁獲量，本県カツオ漁獲量及び南薩・西薩海域の水温，黒潮の離接岸状況を説明変数として，統計モデルを用いて予測しています。

H24 年度漁期の漁獲量予測値 7 ～ 15 トン

(参考：H23 年度漁期予測値 7.9 ～ 10.5 トン 実測値 6.6 トン)



(2) 現在までの近隣海域のヨコワ情報

①山口県海域

前年・平年を下回る漁模様。

②長崎県海域

11 月に入り曳縄漁が本格化した模様。昨年よりヨコワが取れ出す時期が早いと思われる。対馬の一部地域では昨年の漁獲量を上回っている（ただし，平年よりは下回る）地域が見られる。

③高知県海域

夏季の養殖用種苗の採捕尾数は前年・平年を下回った。

④鹿児島県沿岸域

12 月上旬現在，まとまったヨコワの漁獲情報はない。

(3) クロマグロ大型群に関する情報

①太平洋

沖縄県に今年春水揚げされたクロマグロの漁獲量は、前年・平年を下回った。

北部太平洋で今年、大中型まき網により11月末までに漁獲されたクロマグロの漁獲量は以下のとおり。

- ・20 kg以上の「マグロ」の漁獲量は前年・平年を下回った。
- ・20 kg未満の「メジ」の漁獲量は前年を上回ったが、平年を下回った。

②日本海

日本海の境港に今年夏、大中型まき網により水揚げされたクロマグロの漁獲量は、前年・平年を下回った。

鹿児島県水産技術開発センター

〒891-0315 指宿市岩本字高田上160番10

TEL : 0993-27-9212, FAX : 0993-27-9218

E-mail : suigi@pref.kagoshima.lg.jp

U R L : <http://kagoshima.suigi.jp>

<http://kagoshima.suigi.jp/i/> (携帯電話)

漁海況週報FAX情報サービス

衛星画像(水温分布図) FAX : 0993-27-9234

漁海況週報 FAX : 0993-27-9235

